

編集後記

本資料は日本の VLBI の初期及び発展期の資料や記録として未だ十分とは言えず、今後も皆さんのご意見や資料の追加・修正により充実を図っていく予定です。また、初期及び発展期に続き、VLBI 応用技術が日本で開花する時代がこの後、到来します。すなわち、測地 VLBI (KSP など)、VSOP、VERA、RISE 等の一連の計画が実施され、世界を驚かせてきました。これらの技術は測地学、天文学、宇宙探査などの広範な研究分野に広がっています。従って、資料収集や成果の記録等には、多くの人々の協力は不可欠となります。関係者が連携して遅くない時期に開始されることが期待されます。

最後に、電波研究所 OB、国土地理院などの関係機関や会社の方々の協力にあらためて深く感謝いたします。また、中心になってとりまとめを行ってきた「日本の VLBI の初期及び発展期の資料収集と記録を残す会」の趣旨とメンバーを以下に記すこととします。

「日本の VLBI の初期及び発展期の資料収集と記録を残す会」 設立趣意書

VLBI(超長基線電波干渉法)は代表的な宇宙技術の一つとして、電波天文学、測地学や宇宙科学などにおいて、これまで新たな研究分野を開拓し、また現在も新しい観測技術としてこれらの分野を牽引する重要な役割を果たしています。カナダや米国で始まった VLBI は 1970 年代後半に入り日本でもシステム開発が開始されました。開始後、日本の研究・開発は目覚しい発展を遂げ、わが国が開発した観測システムは今や世界をリードするに至っていると言っても過言ではありません。

この技術が日本に導入された初期においては先行するカナダや米国で培われた技術を習得し、成長期においては諸外国と対等に観測を実施し、更にわが国独自の観測システムの開発へと変遷してきました。これらの役割を主として担ってきたのは元郵政省電波研究所鹿島支所の旧第 3 宇宙通信研究室（厳密には国内基礎実験の後に旧第 2 宇宙通信研究室を受け継いで発足、以後旧 3 研）であります。

現在、旧 3 研の時代からおよそ 30 年が経ちました。初期と成長期は旧 3 研のメンバーが日本の VLBI 技術を作り上げ、発展させてきた歴史もあります。これらの時期では予算、体制ともに厳しい状況の中で、画期的な成果を上げ、今日の VLBI の発展を築いてきました。現在も技術立国を標榜するわが国においては、多岐にわたって新たな技術を開発し、世界に伍していくとする試みが数多く見られ、これらを応援する意味でも、わが国における VLBI 技術開発の足跡を記録に残していくことは重要と考えます。しかし残念ながら、4 分の 1 世紀以上も経つと、当時の資料は紛失、成果も記憶から離れていく、忘れ去られつつあります。

このような現状を踏まえ、旧第 3 宇宙通信研究室のメンバーを中心に、当時の貴重な関連資料を収集し、また現場で奮闘する様子などを記録し、後世に遺すことを目的として本会を発足させるものであります。

平成 25 年 6 月 1 日（電波の日）

日本のV L B I の初期及び成長期の資料収集と記録を残す会

メンバー：(旧3研在籍順)

川尻巖大、河野宣之、高橋富士信、吉野泰造、小池国正、川口則幸、
浜 真一、杉本裕二、黒岩博司、 近藤哲朗、国森裕生、雨谷 純、
村上秀俊、栗原則幸、木内 等、 金子明弘、高橋幸雄、日置幸介

(世話人：河野、吉野、高橋幸)
